



## 幼保小の架け橋



架け橋期の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期です。子ども達一人一人が未来に向かって生き生きと生活できるよう、一緒に考えていきませんか。

### Q. 最近よく聞く「幼保小の架け橋プログラム」ってなあに？



A. 5歳から小学校1年生の2年間は「架け橋期」と位置づけ、全ての子どもに学びや生活の基盤を保障するため、自治体のリーダーシップのもと、カリキュラム開発会議等、体制を整え、「架け橋期」にふさわしいカリキュラムを作成・評価することで、教育の充実・改善を目指すプログラムです。

(R5中央協議会 文部科学省初等中等教育局幼児教育調査官資料より)

新年度が始まりました。入学した1年生は、元気いっぱい学校生活を送っていることと思います。令和5・6年度幼保小接続推進リーダー育成事業実施校区の鳥取市立久松小学校の1年生、スタートカリキュラムの様子を紹介します。

#### 1校時 はなまるタイム



学年合同で仲間づくりにつながる楽しい活動。知っている友達の顔を見て安心したり、友達と一緒に体育館で思いっきり体を動かして遊びます。「なべなべそこぬけ」、「じゃんけん列車」、歌「さんぼ」など。

#### 2校時 国語「はるがきた」



絵を見て見つけたものを発表します。園で読んだことのある絵本「おおきなかぶ」の絵を見つけ、みんなで動作化します。

#### 3校時 算数「わくわくすたあと」



算数の教科書の冒頭には、園での遊びの写りが載っています。おもちゃの大きさ比べをしたこと、カプラを高く積み重ねたこと、園での経験を引き出して算数の学習につなげます。

園と同じように、友達と話をしながら活動できるような机をグループの形にしてすごろく遊びをします。

#### 給食の準備



6年生のお手伝いは1日目のみ。担任の先生も子どもたちが自分たちで考えて行動できるよう、声掛けは最小限で見守ります。

3月まで、園のリーダーとして活躍していた1年生。その子ども達の経験・学びを知るためには、「園から送られた要録を読む」「園の先生に直接尋ねる」「園を訪問し、活動の様子や環境を実際に見る」ことが大切ですが、中でも一番大切なのは「子どもに直接聞く」ということです。ついつい、教えてしまいがちですが、教師が子どもと同じ目線に立って、「園ではどうやってた？」と尋ねてみましょう。園で主体的に活動していた子ども達が、小学校に入ってから、自信をもって、自ら考え、主体的に学習に向かえるようになります。